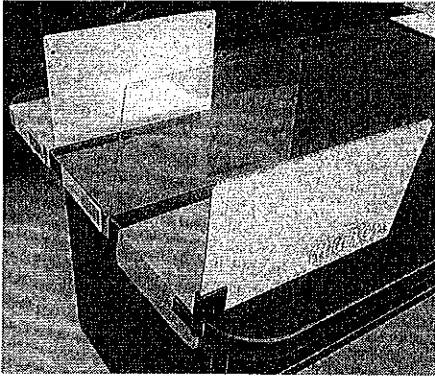


段ボール製で軽く安く

倉庫用仕切り板

受託ソフトの開発・販売を手がけるオフィスエフエイ・コム(栃木県小山市、飯野英城社長)は、倉庫の棚で使う段ボール製の仕切り板を開発、発売した。スチール製やアクリル製に比べて軽くて価格も安いいため、倉庫管理費を削減できる利点がある。2〜3年後に年間売り上げ約3000万円を目指す。仕切り板の販売を通じて物流事業の新たな販路を開拓する狙いもある。

オフィスエフエイ・コムが開発したダンボール製の仕切り板(手前、奥の2つはアクリル製とスチール製)



受託ソフトのオフィスエフエイ・コム 管理コストを削減

同社が開発した仕切り板は縦15センチ、横24センチの長方形の2枚の板を、L字型に張り合わせた形状。

横幅が40センチのタイプもある。折り畳んで持ち運び、現場で直角に折り曲げてプラスチック製のクリップで固定して使用する。この仕組みは2009年12月に特許を出願している。段ボール製の仕切り板は珍しいという。

横24センチの製品の重さは約64グラム。スチール製(同じ大きさの製品で約500グラム)に比べて軽い。アクリル製のように落としても割れる恐れはない。

倉庫内の棚に置く仕切り板は、1つの倉庫で数千枚単位で使用することもあり。スチールの場合、価格は1枚700〜1000円程度するため、1つの倉庫で数百万円かかることもある。アクリル製でも1枚200〜300

0円かかるが、段ボール製は150円前後で、倉庫管理のコストを抑えることができる。

食品や日用雑貨などを扱う倉庫や小売店に販売する方針で、仕切り板の大きさは規格外の注文にも応じるといふ。同社は「段ボールはリサイクルが容易なので、スチール製やアクリル製に比べて

環境にも優しい」としている。

同社は自動車関連の検査システムなどが売り上げの主力だったが、物流事業にも本格的に乗り出している。08年に東京都大田区に在庫管理から発送業務まで一貫して請け負う物流センターを開設。独自の倉庫管理ソフトの販売も始めている。

オフィスエフエイ・コムは1997年創業。09年6月期の売上高は約8億4000万円。